

東由利村報

No. 51

36・1・15

発行所 秋田県東由利村役場

印刷所 株式会社 本間印刷所

紙面案内

1面 村長あいさつ
第10回村議会
森岳へジャージー牛

2面 議長・教育委員長あいさつ
高村林道第3期工事

3面 } 1960年の話題
4面 }

第10回村議会定例会

第十回村議会定例会は十二月十五日役場に招集された。提出議案は専決処分承認など五件、臨時出納検査結果報告があり全部原案可決された。

専決処分(追加更正予算)承認など

主な提出議案は次のとおり。

▽ 専決処分の承認(35年度村一般会計の追加予算)

寺山保育間伐材搬出路の開設工事など速急に処分執行する必要があるため本年度一般会計追加予算を定めた。追加額三二万八六〇〇円、総額五、七〇〇万七



阿部村長

新しい年を迎えました。おめでとうございます。

昭和三十五年は私たち農民、農村にとって変化の多い年でした。その大きな問題は「農業基本法」の制定だと思います。

曲り角農政を改革して新しい方向を示す法案であり、自作

大きく変わろうとする年

阿部村長

できたなら、これも大いに育成しようというものでかつてのような寄生的地主の出でくるのを防いでおります。その内容は広はんにわたり、

関係法律の改正でもおそらく大変なもので、法改正のうち一つでもひつかかったら基本法の中味はどうなるか解らぬほど相互関連性をもつております。

今後の農政には重要な影響をおよぼすものと推測しております。ともに、村づくりにも真剣な態度で善処してまいりたいと存じております。

愛の実むすんだ

歳末たすけあい運動

▼立木の売却処分
宿字寺山地内の雑木八三棚を本年度村一般会計支弁のため売却処分する。

▼国民健康保険条例の一部改正
生活に恵まれない人にも楽しいお正月を迎えていただくよう十二月一日から二十日まで歳末たすけあい運動が行われ、村民の温かいこころさしでお金一万六、四四九円、米六七五キロ(四石五斗)集まった。

この配分は二十六日役場で行われ、一二〇世帯五七二人の人々に一人当り三五円と米一・〇五キロ(七合)をそれぞれおくり感謝された。

基本選挙人名簿登録人員決る
村選挙管理委員会では新しい基本選挙人名簿の調整を行ってきたが、十二月二十日登録人員が確定した。

この度の確定人員は総数五、一六八人(男二、四四七、女二、七二一)で前年より一八人減となっている。



森岳へジャージー牛13頭

仔牛の消流へ明るい見とおし

十二月十四日日本村産ジャージー牛十三頭が酪農地域拡大の先駆となつてはるばる県北の山本村森岳地区へ嫁入りしていった。これは六月に行われた家畜共進会へ森岳地区青年有志が来村して視察していったことがキッカケとなつて同地区でもぜひこのジャージー牛を入れたいという希望がもち上り、本村と山本村ならびに森岳農協、県との間で話し合われ、県では今後、指定

新年度予算編成はじまる

昭和三十六年度村予算の編成は大体今月中で各担当係の一般的経費の予算見積りを終えて主管係長がこれを取りまとめ、内容事情等を聴取の後、二月六日から十八日まで助役総務係長の査定、同二十四日まで村長査定を完了する予定で編成事務が行われる。

地域間であれば仔牛の消流を認めるといふことになり、山本村も新しく酪農地域に編入されるなど地域拡大の弾力的な措置によつてこの村外仔牛消流第一回目が実現した。

この措置は地域の飼育計画頭数達成への進捗状況とにらみあわせ、仔牛の販売による生産性の向上もはかつていこうとするもので、これまで酪農事業を進める上に不安となつてつきまといてきた仔牛消流対策も新しい段階をむかえることになり、さらにこれが機縁となつて今後同地区への計画的な消流も期待できるなどまた一つ明るい希望がもたれるようになった。

【写真は降りしきる雪の中を森岳へ出発するジャージー牛】

1960年の話題を追って

新しい産業構造をつくり上げ、そして新しい生活をうちたてる——これが村の課題である。この課題をガツチリ受けとめ村は起ち上つた。

1960年の村の歩み、それはかぎりない成長の一コマであり建設のいしづえとなつて新しい年に引きつがれる。

産業・経済

○ジャージー牛最後の導入
はるばる海のかなた濠州から最後の導入牛となつたジャージー六〇頭は四月八日、本村に到着した。

酪農園建設の使命をになつて三十三年十月ジャージー牛がはじめて本村にお目見得してから四回目にあたり、これで導入総数は二一五頭、配船、対外事情の変化などにより当初計画より一九頭減になつてゐる。

すでにこれが十二月末には三十四頭にまで繁殖し、成績はよい伸びをみせてゐる。

○共同放牧場完成
酪農事業を進める上には欠かすことのできない共同放牧地は宿



完成した放牧場(朴ノ木沢)

社 会

○村議会議員の改選

公選二度目の村議会議員選挙は七月二十日執行され、あらためて「おらが選良」二十二名が選ばれた。

同二十七日には改選後初の村議会が招集され、議長に佐藤与吉郎氏、同副に佐藤謙吉氏を選任常任委員の決定などを行つて向後四年間、村政運営にタッチする新しいスタッフをととのえた

○国勢調査人口九千人

十月一日実施された国勢調査の結果、本村の人口は九、〇八一人でこゝ五カ年間に約七〇〇人も人口が減少していることが明らかになつた。

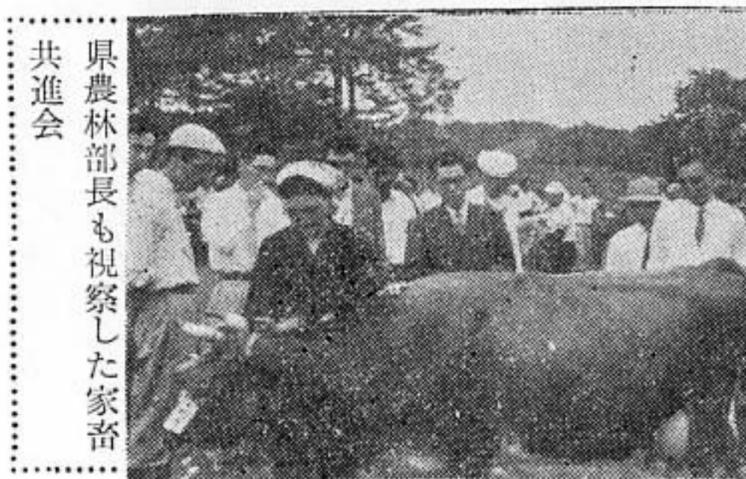
字長根谷地及び田代字朴ノ木沢地内の二カ所に建設された。

長根谷地は一七ヘクタール、朴ノ木沢は一二ヘクタールの規模をもち計画放牧頭数は全体で七〇頭が予定されている。

○頭が予定されている。
看視舎、追込舎、水飲場や隔障物として移動式電気牧柵、柵林などが施設され、牧場内の草地も改良工事が行われて近代的なものに仕上げられている。
放牧開始は新年度かに予定されている。

○農林省でジャージー牛二〇頭買上げ

農林省では寒冷地農業振興対策として国有家畜の貸付けを行つてきてゐるが十一月一日、本村産ジャージー牛二〇頭を買上げ、それを村内の飼育希望農家



県農林部長も視察した家畜共進会

水は低い方へ流れることく、人は暮しやすい方向に移動するといふ、いわゆる所得格差の平衡運動のあらわれとも一口にいえるだろうが、それだけ現在の農村が生活経済上、多くの問題をかかえてゐるといふことが、このことからあらためて考えさせられる。

またこの傾向は今後ますます強まるものと予想されるだけに、農業人口を考えた新しい農業経営形態に改善し、健全に発展する方向へもつていく転機にたたされてゐるといふえようか。

東京に「村人会」発足

本村から東京方面に就職などで転出する人は年々増加し、現在では八〇〇名を超すものと推定

に貸付けした。

○第五回畜産共進会開かれる
第五回村畜産共進会は六月二十九日開催され、これに新しい産業のホープであるジャージー牛一四〇頭が参加し、見る人に村の将来へかぎりない希望と頼もしさを与えた。

○酪農青年連盟を結成
村内一円の酪農青年はガツチリ手をにぎつて困難な問題と対決し、酪農事業推進の支柱となつて活動を行おうと村酪農青年連盟を一月二十九日結成した。

○産米売渡し六万俵こす
三十五年は天候に恵まれて有史以来の豊作といわれ、産米売渡しも新記録をうちたてた。

○林野改善指導市町村に指定される
放置されている資源ともいふべき荒れた公有林を改善するため県では林野利用改善特別指導市町村を設置することになり、七月本村もこの指定をうけた。

林野の存在が財政や住民の生活経済と密接な関係にある本村にとつてとくにこれが急務とされ長期計画のもとに実施しようとして積極的に対策を進めていたおりの指定をうけたことは心強い

されている。
おりから東京在住の有志たちによつて「東由利会」結成の話しあいが進められ実現したのが十月、本村出身の人々がお互いにきん密な連絡をとつて協力しあうとともに、本村ともいろいろな情報を交換し、また新しく就職する人たちのお世話など郷土のため物心両面から援助してくれることになつた。

十一月には村長や中学校長らが上京して村出身者が経営している会社、工場などを中心に実際の労務内容を視察調査して今後の就職対策に役立てるようにしさらに村出身の人々と懇談していつそその協力を要請した。

に着々進められてゐる。
緑の資源が村をうるおすよう、新しい山の設計図ができ上る日もう近い。



事業の遂行に総意を 第1回酪農大会開かる

酪農青年連盟主催による第1回東由利村酪農大会は12月17日役場で開催された。本村の酪農振興事業はおよそ計画の半ば以上が達成されたが、なお今後に残された条件整備や実際の計画遂行に当事者の総意をより強く広く集めてあたろうとする新しい試みで、村内飼育者約130名、河野県連盟事務局長ほか多数の来賓がこれに出席した。畑山連盟会長、阿部村長のあいさつと来賓祝辞があつてただちに研究議題の討議に入り、直面している自給飼料の問題、グループ活動について話しあいがされ、代表による宣言があつて散会した。

【写真は酪農大会風景】

【三面より続く】 ○農業振興指導市町村に 指定される

本村は農業振興特別指導市町村に農業者協議から指定をうけ、五カ年にわたつて経営改善や土地条件整備など実際の指導と援助をうけて農業振興のモデル村をつくり上げることになつた。村ではさつそく推進協議会を組織し、さらに葎沢・黒沢の二つの特別指導部落を選定、この部落活動の積み上げの形で全体の計画遂行がはからわれる。

○南米へ開拓部落の人たち 移住

行きづまつた開拓部落——土地条件や現在ほとんど進められていない農業の体質改善の波にどうしても追いつくことができず、苦勞の割合に恵まれないことが多いのはこの開拓地にも共通した悲しいことである。若林及び東海林谷地開拓地の阿部久造さん、小松義治さん、佐々木佐市郎さん、菊地竹松さん



モダンにできた玉中特別教室



部落民が待望していた診療所

の四世帯二十二名の人たちは新しい天地に生きることを決意して南米ブラジルへ出発したのが九月二十五日である。壮行会で「これまでの苦勞を思えば待ちうけている苦しみなど物の数でない」と語つたが、こ

南米移住者の壮行会



教育・民生

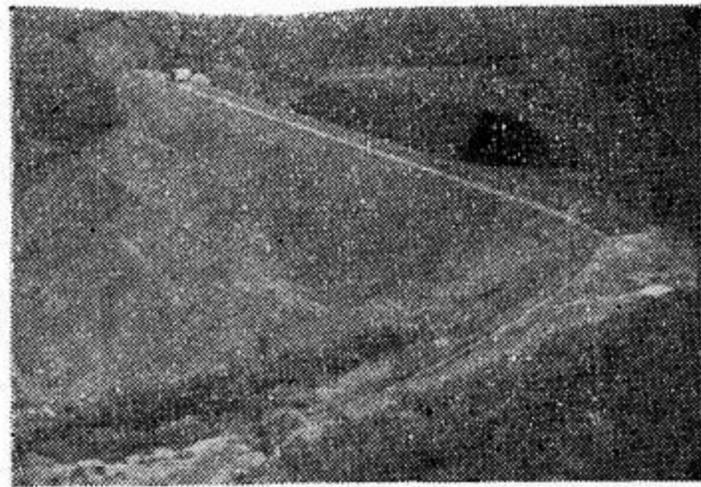
○大琴に診療所できる

無医地区として長い間生命の不安にさらされ、医療機関の設置を待望してきた大琴地区に由利組合病院の診療所が五月完成し十三日には喜びの落成式を上げた。大火から立ち上つて大琴地区では簡易水道の布設、集団加入電

れは移住者の気構えの全てであり、この開拓魂をうちこんで必ず成功してくれるだろう。

○八塩ダムの堤防盛土工完成

本村と本荘市石沢・小友地区の田圃七〇〇ヘクタールのかんがい用水源となる八塩ダム工事は



完成間近い八塩ダム

にこの診療所と部落民結束の力で次々と大きな遺産を生みだし今では文化施設に恵まれた新興部落に浮び上つてきている。

○玉米中学校増築工事完成

これまで特別教室をもたず不便な授業を続けてきた玉米中学校に特別教室などの増築工事が完成した。増築した建物は二棟で、一棟は普通教室二、理科室、図書室など二階建一四〇坪、もう一棟は音楽室で平屋建六一坪、いずれも木造モルタル仕上、工事費総額は六二一万円である。

○文化財支部結成

郷土に残された文化財など歴史的资料を組織的に研究し、保護していこうと有志により県文化

九月ようやく堤防の盛土工が完成し、全貌をあきらかにした。昭和二十六年から着手されてきたもので、これまでの総工事費はさつと一億九千万円、築土堤では県内で二番目の規模のものといわれる。全工事が完成するのは三十六年度中にみこまれている。

○季節労働好成绩

農家の冬眠生活をなくそうと、本村では他市町村にさきがけて就職促進協力委員会を組織し、職業安定機関とタイアップして活動を行つたため、三十四年度の季節労働は県内でも優秀な成績を上げることができた。

○進む道路施策

さらに本年度は同委員会で職業紹介を行うなどけん身的な協力を、二〇〇名にもものぼる季節労働者を送り出し、余じよう労働を季節労働にふり向けて農家経済の維持向上にけん命である。道路整備のおくれば産業、経済文化のおくれを意味すると、三十五年度当初に村長は施政要旨の第一番にこの道路整備をとり上げた。

土木予算の増額はいうまでもなく、幹線道路はできるだけ国県を動かしてその力を借りようと村長が中心に積極的に関わりかけ、それらが次第に実現され、また明るい見とおしの生れてきたものが数少なくない。

まず国道高瀬川橋永久橋工事や路面改修工事が軌道にのり、法内線は営林署との併用林道として再生させ、また丸山橋は営林署の手で全面架替の見とおしが強く、さらに四十年間、県道とは名ばかりの状態であつた矢鳥線県道の開き、大内村と結ぶ連絡道路など、遠大な計画のもとに重要路線の大部分が生れかわろうとしている。

財保護協会村支部が四月に結成された。同支部ではこれまで県同協会会長奈良環之助氏の記念講演や文化財展示会などを開催し、これまでになかつた新しい文野の文化活動を続けてきている。